

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	総務部
------	-----

青雲館の具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (3)避難所開設訓練やボランティア活動など、多くの方々と協力し、社会に貢献する活動を通して、社会の一員としての自覚を高め、社会性、協調性、社会に貢献する心を育成する。
-------------	---

重点目標	総務関連の行事等において、生徒の社会の一員としての意識を高め、併せて保護者や外部団体、地域との連携を深める。	P
------	--	---

現 状	防災訓練やボランティア活動等において生徒は主体的に活動している。保護者や地域と連携した取り組みとして防災訓練やP T Aの諸行事を実施している。一方で一人暮らし世帯の除雪ボランティアや地域の夏祭りのボランティアに積極的に参加する生徒の数は以前に比べて減ってきている。
-----	---

重点目標達成のための方策	1 防災訓練やボランティア活動については、生徒会の執行部にリーダーシップを発揮してもらいながら、積極的に参加する機会を作る。 2 様々な学校行事の案内を保護者や地域住民にも配布し、アンケートや意見交換の内容をできるだけフィードバックしていくことにより、互いの連携を深める。
--------------	---

具体的な取組状況	(1)学校行事の実施にあたり保護者との連携を図るため、今年度新たにP T A役員内に委員会組織を立ち上げ、より細やかな活動を計画・実行することができた。 (2)防災訓練など保護者や地域住民との連携については、参加者が固定化する傾向にある。	D
----------	--	---

達成状況	(1)青雲館が「開かれた学校」であるためには、案内のチラシ配布やメール配信だけではなく、工夫した学校側の働きかけがいっそう大事だと感じた。 (2)星河祭でのP T A屋台の運営や下校時の挨拶運動ではP T A役員以外の保護者の方も参加されるなど少しずつ変化が見られた。
------	---

自己評価	(評価) B (根拠) P T A役員以外の保護者の方や地域住民の協力が得られるような内容を工夫することで、さらに学校と保護者や地域住民の連携が深まるように努力したい。学校行事を通じて生徒がさらに成長できる環境作りを今後も進めていきたい。	C
------	--	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B 地域の方が参加する行事は、学校の取組をアピールできるよい機会と思うので、地元FM局等のメディアを利用するのも手段としてあっていいと思います。	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	地元放送局のメディアだけではなく、生徒が主体的に活動して作成している『青雲館新聞』や『青雲』などを活用して、外部に学校の様子を知らせる活動も続けていく。また、避難所開設訓練では、今後も地域や関係機関と連携して生徒の活躍する場面をアピールしていく。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	教務部
------	-----

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。
-------------	---

重点目標	わかりやすい授業づくりと生徒が意欲的に参加できる学習活動の工夫。 <ユニバーサルデザインを意識した授業改善> 1 学び合い、教え合い、話し合いの場面を意識した授業展開の工夫。 2 生徒の理解を手助けする「板書のルール」の作成。 3 各種マグネットシート（「本時の目標」「学習課題」「振り返り」）の活用の徹底。	P
------	--	---

現 状	義務教育段階の基礎学力の不足と学び直しの必要性、言語表現力やコミュニケーション能力の弱さ、学習意欲の低さや自信のなさが目立つことなどが課題である。
-----	---

重点目標達成のための方策	1 板書のルールを校内で統一して、授業の理解度を向上させる。 ・「学習課題」を青色、「振り返り」を赤色で囲って板書する。 ・授業の日付、教科書や問題集の頁数を板書する。 2 ねらいを意識したグループ活動や生徒同士の学び合い等の授業展開を実践する。 ・課題解決を支援するための学習活動を工夫する。 ・提示課題等を用いた振り返りを徹底させる。 3 教員の指導力向上のために、研修の機会を設ける。 (生徒情報交換会、相互授業参観、校内研究授業、授業アンケート分析等)	D
--------------	---	---

具体的な取組状況	・教員の指導力向上のために、実践的な研修の機会を設け、より効果的な板書や授業展開に役立てた。(授業改善のための職員研修：ユニバーサルデザイン研修、相互授業参観、校内研究授業) ・全科目で授業アンケートを実施した。今年度は7月に実施したことにより、教科内でアンケート結果を分析、改善策を協議した。	D
----------	--	---

達成状況	・特に、ユニバーサルデザイン研修を行い、校内で板書を統一し、生徒の理解を手助けする「板書のルール」を定着させた。さらに、マグネット式ミニホワイトボードを授業で活用する機会が増えたことで、学び合いや話し合いの場面を意識した授業展開の工夫を促すことができた。 ・授業アンケートを実施したことで、生徒理解やその後の授業展開に大いに役に立った。また、アンケートを夏季休業前に実施したことにより、後期の授業内容や指導方法の改善につなげることができた。次年度からは教務での集計から、教科ごとの集計に変更し、教科内の分析が迅速にできるように改善していきたい。
------	---

自己評価	(評価) B (根拠) 教員の指導力向上のために、ユニバーサルデザイン研修や校内授業参観、授業アンケートを計画通り実施した。着実に授業改善がなされて生徒の思考を促す授業が進んでいるため、今後もさらに取組みを推進していきたい。特に、授業アンケートについては、教務部内での集約では時間を要するため、今後は教科ごとの集計に変更してスムーズにできれば、年1回から年2回の実施が可能になるので、改善に向けて準備していきたい。	C
------	--	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A これまでの授業参観では、黒板の利用や板書の仕方に一工夫があっただと感じていたが、着実に改善されているようです。生徒の学習意欲も高まってきていると思う。個々に応じた授業展開を期待します。	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	・今後もユニバーサルデザインを意識した授業改善を、わかりやすい授業づくりを推進していきたい。授業アンケートの結果を各教科で分析した内容を次年度初めに確認する。また、調査項目についても年度初めに職員に周知させたい。 ・来年度から授業アンケートの集計方法を教務から教科内に変更し、自己の課題や教科内での改善策を協議できるようにしていきたい。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	生徒指導部
------	-------

青雲館の具体的な手立て	3 集団の決まりを守り、社会に開かれた心を育む指導 (2)端正な服装、爽やかな挨拶、公共のルールの遵守等も含めて、地域や社会に信頼される人材の育成を図る。
-------------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・場にふさわしい服装、行動を心がけるよう指導する。 ・携帯電話、授業、交通ルールなど、集団の決まりを守って生活するよう指導・援助する。 	P
------	--	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動として扱われる件数は少ないが、SNSの不適切使用は広く行われていると思われる。長時間使用による生活リズムの乱れなども多くある。 ・茶髪やピアスの生徒は少数で影響は大きくはない。服装は華美なものは見られず、儀式などでは場にふさわしいものを着用している。 ・挨拶はよく行われている。 	P
-----	--	---

重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、面談、行事、委員会・生徒会・部活動などを通して、教員と生徒の信頼関係を築く。アンケート（年度当初、学校生活）、面談（アルバイト、ボランティア、インターシップ、学業、生活等をテーマとして）等を通して教員が生徒への理解を深める。 ・問題が生じた際は、教員単独で対処するのではなく、学年・生徒指導部・管理職との連携を密にし、複数の観点からとらえ、適切な対処を図る。 	D
--------------	--	---

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識を高めるため、各種教室や講話、アンケートなどを実施した。 ・定期的に整容指導を実施した。 ・生徒保護者からの相談や訴えに対して、当事者同士の面談など柔軟に対応した。 ・各高校や関係機関との情報交換などに努めた。 	D
----------	--	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの相談や訴えには迅速に教員間の連携を図って対応することができた。 ・各種講話などの内容を、生徒は良く理解し活かそうとしているように思われる。 ・自動車に関わる指導で、保護者への注意喚起のために個別に面談を実施した。 	D
------	--	---

自己評価	(評価) B (根拠) 事故が起こってからの対応は教員間の協力で対応ができたが、防止のための指導が充分ではなかった。スマホ使用についてのアンケート結果を指導に結びつけられていない。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B スマホの利用については、目に見えないところが多いのでアンケートは必要と思います。生徒を取り巻く状況は目まぐるしく変化しているので、先生方も大変だと思いますが、問題が起きたときや相談や訴えにに対しての対応を今後もしていただきたい。	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの校内での使用について登校時から退校時までは職員室に預けることを徹底する。 ・県のいじめアンケート以外に本校独自のアンケートを実施し、トラブルが発生する前に対応できるようにする。 	A
------------	--	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	進路指導部
------	-------

青雲館の具体的な手立て	<p>1 自立して生きる力を育む指導</p> <p>(1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追求能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。</p> <p>3 集団の決まりを守る開かれた心を育む指導</p> <p>(1) インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む。</p>
-------------	---

重点目標	<p>集団の一員としての自覚を持ち進路実現のために、1年次は将来について具体的な展望を持ち進路目標を明確化する。2年次は、進路目標の達成に向けて計画的、継続的に取り組む。3・4年次は進路目標の達成に向けて実力養成に取り組む。</p>	P
------	--	---

現 状	<p>積極的にアルバイトやボランティアに取り組み、社会性を身に付けていく生徒がいる一方で、同世代や大人とのコミュニケーションのとり方に苦慮している生徒もいる。また、進路実現を自分のこととして受け止め計画的に取り組める生徒と、具体的な進路目標を見いだせずにいる生徒もいる。</p>	P
-----	---	---

重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトやボランティア活動、資格取得等の情報を発信し、積極的に取り組める環境づくりを行う。 ・進学希望の生徒に対して、午前や中休み時間を利用した補習や長期休業中のなど継続的な学習指導を行う。 ・2年次のインターンシップに留まらず、3・4年次でも積極的に職場体験を行う。 ・学校行事を通して、地域社会に関わり地域社会に貢献する姿勢を身に付ける。 	P
--------------	--	---

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業予定者の希望する業種への職場見学を積極的に奨励し、教職員も生徒とともに参加した。 ・ハローワーク学卒担当者や職場定着支援員と、求人状況や企業情報等について積極的に情報交換を行った。 ・進学希望者に対して、午前中や中休みの時間帯、長期休業中を利用した個別補習、AO・推薦入試に向けた面接練習など進路別に細かく対応した。 	D
----------	---	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業予定者に対する就職や進学の個別指導は例年通り実施できた。 ・1、2年次生に対してはインターンシップや職場見学、進路講話など例年行っている事業は実施できたが、将来を見通した計画的な進路指導は課題が残った。 	D
------	---	---

自己評価	<p>(評価) B</p> <p>(根拠) 多くの生徒は第1希望の進路実現を達成できたが、就職・進学ともに動き出しが遅い生徒が多かった。多様な生徒がおり、生徒一人一人の実態に応じて慎重な対応が必要であるが、決められた期限を守るなど必要最低限のルール徹底など、さらなる学年部や保護者との連携が必要である。</p>	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>一人ひとりの生徒と向き合い、進路意識の高揚やインターンシップ先での実践指導、進学を目指す生徒の個別指導など全教職員が一体となって頑張っている姿が浮かんできます。一人で背負わず、学年や分掌が連携して、生徒の進路実現に向けて指導体制を構築してほしい。</p>	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	<p>生徒の多様な進路希望を実現するために、教職員が学年を超えて協力していくことが大切である。専門教科の指導にも制限があるが、生徒一人ひとりを理解し、個別指導を中心に今後も粘り強く指導していきたい。</p>	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	特別活動部
------	-------

青雲館の具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1)一人ひとりを選び、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。 (3)避難所開設訓練やボランティア活動など、多くの方々と協力し、社会に貢献する活動を通して、社会の一員として自覚を高め、社会性、協調性、社会に貢献する心を育成する。
-------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の活性化を図るため生徒会が主導し、生徒からのアイデア等を引き出し各種行事に活用できるよう取り組む。 生徒一人ひとりが学校行事や部活動に積極的に参加し、充実感や達成感を味わう。 各種行事を通して、道德感の育成に努める。 	P
------	--	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事は生徒の意見が反映できるよう、生徒会執行部の話し合いを多く設定している。 各種生徒行事を通じて企画運営等を計画し、司会進行などの役割分担を明確にし活躍する場の設定をしている。
-----	--

重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と情報交換しながら生徒の意見やアイデアを取り入れ、より生徒が活躍できる計画を立案する。 生徒会執行部および各クラスの委員長や副委員長も含めた拡大した生徒会の編成を計画し、クラスの意見も反映されるよう配慮していく。(昨年度からの継続) 各種行事の後にアンケートや反省会を実施し、次回に生かせるよう確認する。 学校祭を早目に計画し、準備、実行まで実施する。 (難儀しながらも成功体験を多く経験させる)
--------------	---

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の意見を取り入れ星河祭の各種行事をスムーズに実施することができた。昨年の反省を生かしながら一人一役の任務を果たした。また、生徒会執行部の他クラス委員長や副委員長も参加した会議を開催し、クラスの意見も取り入れ生徒全員で星河祭を成功させた。 防災訓練など生徒会が先頭に立ち司会進行など運営にも力を発揮した。 	D
----------	--	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から出された意見や要望等を取り入れ、星河祭を計画通りに実施できた。 不登校経験の多い生徒達を各種行事で司会進行など生徒の活躍の場を設定することができた。
------	---

自己評価	(評価) A (根拠) 生徒会執行部に責任感が増し、各種行事が充実してきている。防災訓練を通じて、各種行事にも地域住民が気軽に参加できる体制を強化していきたい。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A 学校行事に参加して、みんな楽しんで自分の役割を果たしているように見えました。文化祭は、生徒にとって自分の役割や責任ある行動を提供する貴重な機会になっているような気がします。	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心にHR委員長、副委員長等を加えて様々な行事を企画運営していけるよう活躍の場を確保し、体験的な活動を実施していきたい。 ボランティア活動にも積極的な参加を促し、人や自然との関わりを大切にしながら利他の心の育成を模索していきたい。 	A
------------	--	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	保健部
------	-----

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (3)主体的に問題や課題を見出し、その原因や理由、解決や克服の手段や方法を研究する活動を通して、よりよいものをめざして努力する姿勢を強化する。
-------------	--

重点目標	生徒一人ひとりが自分の健康状態を把握し、生活習慣の改善点を見出すことができるように、自己管理する力を身につけさせる。	P
------	--	---

現 状	昨年度のライフスタイル調査で、スマートフォン等の使用時間が2年前の3倍となっていることが分かった。睡眠時間まで削って健康状態を損なっている状態である。使用時間を減らすことができない現状にある。
-----	--

重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン等使用時間の実態を把握できるようなライフスタイル調査を実施する。実施項目は生徒指導部と連携して検討する。 生徒会の保健委員会の話題としてスマートフォン等の使用と睡眠時間の問題を検討するようはたらきかける。 生徒自身にスマートフォン等使用時間の短縮に向けた方策を考えさせる。(標語募集、青雲館新聞に取り上げるなど) 年度末にアンケートを実施し、短縮に向けた動きがあるかどうかを確かめる。
--------------	--

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 7月にライフスタイルアンケートを実施した。スマートフォンの使用時間が1日平均6時間に増加したことを「青雲館新聞31号」に掲載した。 1月下旬にスマートフォンの使用時間についてのアンケートを行い、使用時間を減らす方法も記述してもらった。 	D
----------	--	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの使用時間が長いことを生徒に意識させることはできたが、睡眠時間への影響までは取り上げられなかった。 1月のアンケート結果は「青雲館新聞32号」で取り上げる予定である。
------	---

自己評価	(評価) B (根拠) アンケートについては生徒指導部と連携して質問項目を決めて行うことができたが、生徒会保健委員会の話題にすることはできなかった。1月のアンケートは生徒(保健委員長)が作成し、使用時間を減らす方法も考えていることが確認できたが、使用時間短縮の意識が低い生徒もまだ多いこともわかった。	C
------	---	---

(評価基準) A: 具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B もはや生活の一部となってしまったスマホは、便利である反面、問題も多い。便利さより問題のほうに振り回され、多くの時間を費やしているのではないのでしょうか。「こんな使い方をして大失敗した」というような体験談を聞くことも必要と思います。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> スマホの長時間使用によって睡眠時間を十分に確保できなかったり、視力低下などの問題が生じると考えられるが、アンケートを通じて生徒に考えさせる機会を持つことができた。今後もLHR等を利用してスマホの使用方法を考えさせたい。 スマホ使用管理を自己管理につなげたい。 	A
------------	--	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	研修部
------	-----

青雲館の 具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追及能力、コミュニケーション力、表現力等の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。
-----------------	--

重点目標	校内外における研修の充実を図り、生徒理解の促進と指導力の向上に努める。	P
------	-------------------------------------	---

現 状	不登校を経験した生徒、発達障害および診断は受けていなくとも何らかの障害の特性がみられる生徒、さらに転編入生等、多様な生徒が在籍し、個々に様々な課題を抱えている。学力面、対人関係形成能力における個人差も非常に大きい。生徒への指導にあたっては様々な工夫が求められる。	P
-----	---	---

重点目標 達成のための 方策	①生徒情報を理解・共有することで、生徒指導に活かす。 ②特性に応じた適切な支援をすることで、生徒の自己肯定感・有用感を育む。 ③授業参観・研究授業・協議会を通して、授業改善に活かす。	D
----------------------	---	---

具体的な取組 状況	①生徒情報の冊子を作成し、それを元に2回の生徒情報交換会を実施した。後期転編入・転籍の生徒についても、生徒情報冊子に追加し情報の共有をした。 ②自閉症スペクトラム（ASD）基礎研修を通じ、ASDを疑似体験した。横手支援学校と連携し、授業のユニバーサルデザインについて研修を行った。 ③年2回の相互授業参観、年1回の研究授業を行った。研究授業後は教育専門監による指導助言も含む研究協議会を行った。 ①～③の取り組みを作成中の研究紀要第14号により共有する。	D
--------------	--	---

達成状況	①生徒情報の冊子は特別支援の観点も含め作成した。 ②ASD基礎研修では、ASDの生徒の状態を体験することで、生徒の抱えている課題を知り、特性に応じた支援の仕方を学ぶなどASDについて理解を深めることができた。ユニバーサルデザインの研修では、具体的な授業例も含め職員全体がユニバーサルデザインについてのアプローチ方法を学んだ。 ③研究授業では「主体的・対話的な学びを実現する手立てについて」をテーマに、アクティブ・ラーニングについて、教育専門監による指導も含め教職員全体で協議し、グループ活動の方法などを学んだ。	D
------	---	---

自己評価	(評価) A (根拠) 本年度はすべての方策に対して、具体的な取り組みをすることができた。各分掌との連携も密に行われ、よりよい実践内容になったと感じる。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価 と意見	(評価) A よく取り組まれていると思います。生徒一人ひとりの状態を把握するのは難しいことですが、一人で悩まず、みんなで悩みを共有し、対応していく必要があります。	C
----------------	--	---

評価に基づいた改善策	生徒情報交換会は年度当初に2回行われているが、後期に入学生が多数いた場合などは後期も開催する。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	図書視聴覚部
------	--------

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題発見能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等々の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 3 集団の決まりを守り、社会に開かれた心を育む指導 (1) インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む。
-------------	--

重点目標	情報発信の場としての「図書館」の活用を図り、受信・発信の双方ができる生徒を育てる。	P
------	---	---

現 状	読書を楽しむ生徒の数は増えてきているが、貸出・閲覧状況はなお一部の生徒にとどまっている。授業でも図書館資料を活用する機会や視聴覚室として活用する機会は少なくないが、ほとんどが視聴覚教材を活用した情報収集にとどまっており、必ずしも生徒のコミュニケーション能力の育成にはつながっていない点が見られる
-----	---

重点目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 進路スクラップ作成を通して、読む人にとって分かりやすい文を書くよう指導する。 図書通信や「青雲館新聞」のなかに、図書委員や出版委員に記事を書かせるだけでなく、国語の授業等でも本や読書に関する文章を書くよう指導する。 図書の展示方法や掲示等を工夫し、図書館利用のいっそうの活発化を図り、掲示物や配布物などによって「本」に関する紹介も行う。さらに、校外における読書関連イベントにも積極的に参加させる。
--------------	--

具体的な取組状況	(1) 進路スクラップは提出回数を減らした昨年度以降、じっくり取り組む生徒が増えてきている。 (2) 新聞発行活動は外部から高評価を得ており、本の紹介コラムも充実している。図書通信では先生からのオススメ本を紹介するというコーナーを新たに設けた。 (3) 図書通信の発行に加え、展示方法や掲示の工夫、県立図書館のセット貸出の利用も実施した。	D
----------	---	---

達成状況	(1) 読書感想文コンクールには参加できず残念であったが、ビブリオバトルに参加する生徒もおり、読書活動の広がりがみられた。 (2) 本好きな生徒、表現することに前向きな生徒が増えてきている。 (3) 寄贈を中心に蔵書が増えた。セット貸出は好評だがテーマによる貸出の差が大きい。以前より気軽に図書館に立ち寄り、蔵書を眺めている生徒が増えている。
------	---

自己評価	(評価) B (根拠) 読書活動の充実については学校全体とはいえないまでも、以前より深まりががみられる。図書通信の発行回数が減ってしまったのが反省点である。また、進路スクラップが実践的な力を発揮できるような何らかの方策が必要である。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A 読書離れが進む中で、生徒の読書への関心が高まっていることは大変素晴らしいことです。進路スクラップも世の中のことを知るよいきっかけになると思います。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	図書通信の回数を増やし、館内掲示も充実させて、先生や生徒からのオススメ本をいっそう広め、それを選書・購入にも活用したい。進路スクラップで優れた内容や取り組み姿勢の立派なものについては、校内表彰も考えたい。ビブリオバトルや読書感想文コンクールへの参加を促す手立てを検討し、実行に移したい。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	スペース・イオよこて
------	------------

具体的な手立て	1 個別学習支援プログラム 自主学習、個別学習、一斉授業（イオタイム） 2 集団適応支援プログラム ソーシャルスキルトレーニング（SST）
---------	--

重点目標	1 生徒のニーズに応じた適切な支援と指導の充実を図る。 2 関係機関と連携し、生徒理解のための情報収集や対応を図り、生徒個々の自立を支援する。	P
------	--	---

現 状	現在、2名の生徒が入所している。（1名は昨年度からの継続入所、残り1名は新規入所）今後も後期入所の生徒や随時入所の生徒が増えることが予想される。学習空白のある生徒に対して学年相応の学力がつくように、丁寧な指導していきたい。
-----	---

重点目標達成のための方策	1 在籍中学校等、関係機関と連携し、生徒理解のための情報収集を図り、生徒のニーズや気持ちを大事にした適切な支援をする。 2 基礎基本の定着を図るとともに、思考力、コミュニケーション力、表現力等を活用する授業や活動を通して、生徒の自立する姿勢を強化する。 上記2点の方策を通して、生徒の実態とニーズに応じた指導を粘り強く、継続して行い、学力や対人スキル等を向上させることで生徒が自信をつけ、主体的に動けるように支援していきたい。
--------------	---

具体的な取組状況	1 7月に在籍校担任等連絡会を開き、生徒情報を交換したり、有効な支援の仕方を協議した。在籍校とは日常的に連絡をとり、5教科の進度に合わせて指導したり、定期考査や実力テスト対策の学習を支援した。各種テストはイオで実施した。 2 学習指導カウンセラーによる相談は希望により毎週水曜日、SSTは毎週月曜日に実施した。	D
----------	--	---

達成状況	1 在籍校担任等連絡会は毎年7月に実施しているが、在籍生徒がまだ2名であり、2校の担任と連絡会を実施した。その後、随時入所の生徒が増えた。来年度は連絡会を後期に実施することを検討したい。中3の生徒で後期からは入試対策の学習支援をしてきた。基礎基本の定着を図るとともに、学力向上を目指して全力で支援をした。 2 相談は生徒にとって、気持ちの安定を図るために有効であった。相談内容は必要に応じて在籍校担任に伝えた。SSTでは思考力、コミュニケーション能力、対人スキル等を学ぶことができた。
------	---

自己評価	(評価) A (根拠) 本年度はすべての方策に対して、具体的な取り組みをすることができ、よりよい実践内容になったと感じる。	C
------	--	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A 特になし。	C
------------	-----------------	---

評価に基づいた改善策	来年度からは連絡協議会を2回（6月と10月）実施することになった。連絡協議会では関係機関との連携をより一層深め、生徒支援のための情報収集や対応を図り、生徒の自立を支援していきたい。	A
------------	--	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	1年次
------	-----

青雲館の具体的な手立て	2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1)一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-------------	--

重点目標	生徒一人ひとりが自他の個性を尊重すると共に、集団の一員として役割と責任を果たし、互いに尊重し、良さを認め発揮し合えるような人間関係を形成する。	P
現 状	中学校の時は、登校できなかつたり、ごく少人数のクラスで過ごした生徒が多いためコミュニケーション能力や対人関係に不安のある生徒が多い。	
重点目標達成のための方策	1 授業中のグループ活動などの言語活動を通じ、コミュニケーション能力を育成する。 2 行事を通じて、集団で行動する意識や社会性を涵養する。	

具体的な取組状況	1 授業にグループ活動を取り入れた。プロジェクトアドベンチャー（PA）を行った。 2 なべっこ等の行事では、事前にLHR等で生徒同士での話し合いの場を設け、自主的な取り組みを促した。	D
達成状況	1 授業のグループ活動や、4月のPAなどを通じて話すきっかけができ、徐々に生徒同士でコミュニケーションを取れるようになってきた。 2 行事の参加率は例年より悪い。大人数が苦手な生徒が多数おり、困難な面もあるが、少しずつ行事にも参加できるようにしていきたい。行事に参加した生徒の取り組みはよい。	

自己評価	(評価) B (根拠) 4月当初よりは、授業中の生徒のコミュニケーションも活発になってきている。行事の参加率は課題が残る。次年度以降も声かけなどを行い、少しずつ改善していきたい。	C
------	--	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B 行動に移すことにより得るものが必ずあります。自分の成長に役に立つことを説明し、行事に積極的に取り組む環境をつくってほしい。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	・儀式的行事の意義を説明する。 ・行事の有無にかかわらず、出席する指導をする。	A
------------	--	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	2年次
------	-----

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題解決能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-------------	---

重点目標	・学習習慣をつけ、基礎を定着させ、思考力・表現力等を育成する。 ・人と協力して活動することで社会性・協調性を育む。 ・思いやりを持って人に接する。	P
------	---	---

現 状	・人間関係に悩みを抱える生徒が多く、集団での活動が苦手な中で、少しずつではあるが人に協力する姿勢が見られるようになってきている。 ・進路実現を考えアルバイトの継続等積極的に活動する生徒が増えた。	P
-----	--	---

重点目標達成のための方策	・インターンシップやアルバイトを通じて社会性を養う。 ・面接を通して生徒個々への対応をすることで、人間関係を構築していく力をつける。 ・問題がある生徒に対し、家庭訪問等で保護者も交えて対応していく。 ・学習を通して思考力を養い、判断力をつける。 ・始業前のクラス読書を実施し、心の成長を促す。	P
--------------	--	---

具体的な取組状況	・インターンシップに参加し大人との対応の中で多くを学ぶことができたようである。アルバイトを行う生徒も増えている。 ・問題がある生徒に対し保護者と協力し、複数で対応していく。 ・授業の様子を見に行く、巡回するなどして集中して取り組むよう促した。 ・クラス読書は前期はある程度統一してできたが、後期は個人差が出てしまった。	D
----------	--	---

達成状況	・インターンシップやアルバイトを通して社会性が身についてきている生徒が多くなった。 ・保護者との連携を取ることはできたが、不登校気味の生徒の改善にはつながっていない。 ・授業での姿勢は、改善が見られる生徒が増えてきている。 ・読書については生活習慣として定着するよう促していきたい。	D
------	--	---

自己評価	(評価) B (根拠) 人と協力する姿勢が多く見られるようになり、社会性や協調性、思いやりという点では成長がうかがえる。しかし、学習への取り組みは個人差が大きく、できていない生徒が複数いる。目標を意識させ、集中して学習に取り組めるよう指導していきたい。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B 不登校気味の生徒に対しては、焦らずじっくり見守っていただきたいと思えます。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	・不登校気味の生徒に関して保護者との連絡を密にし、改善に向けて対応していく。 ・読書の時間を継続し、思考力や集中力を向上させる。 ・卒業予定者に、進路目標に向けた対応ができるように指導する。4修希望者に対しても目標を持たせ活動させる。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	3年次
------	-----

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題解決能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-------------	---

重点目標	・卒業予定者の希望進路を実現する。 ・次年度卒業予定者の進路について具体的な展望をもち進路目標を明確化する。 ・道徳心（利他の心）の大切さを指導する。	P
------	---	---

現 状	・人間関係に様々な悩みを抱えている生徒が多い中でも、学校行事等の集団行動にしっかり向き合っている生徒が多い。 ・進路実現のため、資格取得への挑戦やアルバイトの継続など積極的に活動している生徒が多い。
-----	--

重点目標達成のための方策	・3、4年次PTAを企画し、保護者と協力した進路指導を展開する。 ・SHR前の10分程度、読書をして読書量を増やし思考力の向上を目指す。 ・学年集会やLHRを通じて、道徳心（利他の心）の大切さを指導し、実生活に生かせるようする。	D
--------------	--	---

具体的な取組状況	・3、4年次PTAを6月12日に実施した。ハローワーク学卒担当者、本校職場定着支援員の講話等を交えた内容の濃い進路指導が実施された。 ・SHR前の読書は昨年からの継続的に実施しており定着が図られ読書量も増した。 ・学年集会を中心に道徳に関連した時間を計画的に実施した。
----------	--

達成状況	・進路指導は各自のペースで確実に取り組み進路目標を達成した生徒が多い。 ・読書を通じて落ち着いた学校生活のスタートを切っている。 ・学年集会では道徳に関連させ、人として正しい行動を心がけさせた。
------	---

自己評価	(評価) A (根拠) 学年部でぶれない指導を行い、人として正しい行動を心がけさせた。目先の利益などにとらわれず、人の役に立つなど人材育成に心がけた。	C
------	---	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A どの学年にも、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の気持ちを忘れずに頑張ってもらいたいと思います。	C
------------	---	---

評価に基づいた改善策	まずは当該学年の心を磨き成長の糧となるよう指導しながら、3、4年生の上級学年の自覚や振る舞い等について指導していきたい。そのためには指導する我々教員のさらなる研修の積み重ねが求められている。	A
------------	---	---

令和元年度 校務分掌等の評価

評価領域	4年次
------	-----

青雲館の具体的な手立て	1 自立して生きる力を育む指導 (1) 基礎基本の定着とともに思考力、発想力、観察力、問題解決能力、原因追究能力、コミュニケーション力、表現力等の多様な能力を活用する授業や活動を通して、21世紀を生き抜く力を育成する。 2 周りの人々を思いやり、共に生きる意欲や社会に貢献する意識を高める指導 (1) 一人ひとり信じ、深く関わることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む。
-------------	---

重点目標	・卒業予定者の希望進路を実現する。 ・次年度卒業予定者の進路について具体的な展望をもち進路目標を明確化する。 ・他の人を思いやりお互いに助け合う姿勢をもつ。	P
------	--	---

現 状	・人間関係や様々な悩みを抱え、学校行事や集団で活動する場面に積極的に関わることができない生徒がいる。 ・希望進路実現にむけた午前補習の継続、資格取得への挑戦、アルバイトの継続など自分の進路に対してしっかりと向き合っている生徒がいる一方で、自分の進路に対して意識がまだ低い生徒がいる。	P
-----	--	---

重点目標達成のための方策	・人間関係や様々な悩みの把握のために粘り強く、個別面談や三者面談、家庭訪問を継続する。 ・大学進学希望者に対する午前補習と長期休業中の学習指導を継続する。 ・就職希望者には職場体験を奨励し、希望する職種の絞り込みと働くことの意義についてしっかりと考えさせる。	P
--------------	---	---

具体的な取組状況	進学希望者には個別の進路に合わせて補習授業を実施した。オープンキャンパスへの参加を奨励し、小論指導や面接練習に力を入れた。就職希望者には早い時期から職場見学を奨励し徹底を図った。履歴書等の指導は時間をかけて丁寧に行った。三者面談が必要と思われる生徒には繰り返し実施した。	D
----------	---	---

達成状況	・進学就職ともに未達成の者がいるが、決定に向けて努力しているので最後まで頑張らせた。 ・卒業を心配された生徒が生活全般が改善され欠席なども減り進路実現に頑張った。	D
------	--	---

自己評価	(評価) B (根拠) 前期卒業の生徒が2名いたが、他の生徒は良い意味の影響を受けなかった。全体として進路に向けての取り組みが遅かった。日常的に生徒個々の希望を聞いたり、三者面談で保護者の意向を確認して進めることができた。	C
------	--	---

(評価基準) A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A どの学年にも、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の気持ちを忘れずに頑張ってもらいたいと思います。	C
------------	--	---

評価に基づいた改善策	LHRや総学の時間に進路研究の時間を設定し、全員が協力して進路活動に向かえるようにする。様々な職種の求人票を比較したり、生徒同士の面接練習などお互いを刺激するような活動を計画する。	A
------------	--	---